

美術研究科博士前期課程 3 ポリシー

ディプロマ・ポリシー

■ 人材育成目標

社会で通用する専門領域の知識と創造性の高い表現力や研究者としての高い見識と論理の整合性を持ち、各専門研究領域のリーダーになりうる人材を育成します。

■ 修了までに身につけるべき資質・能力

独自の視点を持つ研究テーマを見出し、創造的な表現・研究をなしうる能力を持ち、社会的に評価される研究へと展開する能力を身につけます。

■ 学位の授与方針・評価方法

- ・「修士作品」又は「修士論文」の審査を受けた者につき最終試験を行い、これに合格したものを修了と認め、修士（美術）の学位を与えます。
- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・修士作品又は修士論文及び、最終試験（口頭試問等）の評価／主査1名、副査2名で構成する審査員が評価し、協議の上、総合的に評価を決定します。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程は1専攻6領域で構成され、学生は学部の学習を基本に各自の研究テーマの方向性を見出し、さらに研究を深めます。本学は、専任教員が学生一人一人と対話しながら各学生の研究計画書の作成を丁寧に指導し、各学生の研究内容に沿って専任教員を中心に他大学教員・研究者・作家などの幅広い見識者の知見を取り入れた指導をおこなっています。

■ 教育課程の編成方針

美術総合研究と美術特別研究を中心に個性、専門性、知見の拡充を目指したカリキュラムを実施しています。

■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

学生の個々の研究に基づいた個人指導をおこないます。

（美術総合研究）

学生個々が研究計画書を作成し、学生の独自性、専門性を尊重しながらその計画に沿って指導します。

（美術特別研究・プロジェクト研究）

学生の知見を広げるため領域を横断して受講でき、100前後の講座が開講されています。

■ 教育課程の評価方針・方法

学生個々の研究計画書に沿って研究状況を総合的に評価します。

アドミッション・ポリシー

■ 求める人物像

- ・志望領域について基本的な知見と論理を構築する能力を有する人
- ・志望領域について創造性のある表現力や構想力を有する人
- ・高い向学心を有し研究心が旺盛である人
- ・柔軟な思考力と物事に対する洞察力を有する人

■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・志望領域の実技表現力や基礎知識を習得していること

■ 入学試験の基本的な方針・考え方

・各領域の特性に応じその専門性に沿った入学審査をおこないます。